

平成 29 年度事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人
中村元記念館東洋思想文化研究所

◆理事会（開催年月日 平成 29 年 5 月 24 日）

開催場所 中村元記念館 大会議室

出席者数 10 名（うち評決委任者 3 名）／ 理事人数 11 名

議決事項の概要

- ・理事の選任について
- ・平成 28 年度事業報告・決算
- ・平成 29 年度事業計画及び予算に関する件
- ・各種規程（案）について

◆総会（開催年月日 平成 29 年 5 月 24 日）

開催場所 中村元記念館 大会議室

出席者数 15 名（うち評決委任者 6 名）／正会員数 20 名

議決事項の概要

- ・平成 28 年度事業報告
- ・決算承認について
- ・平成 29 年度事業計画及び予算に関する件
- ・監事の選任について
- ・各種規程（案）について

1. 事業の成果

平成 24 年 10 月 10 日の開館以降、平成 30 年 3 月 31 日時点で延べ 48,560 名が訪れている。平成 29 年度は、6,766 名にご来館いただいた。

平成 29 年度は施設の改修工事（松江市役所八束支所複合施設改修工事）が行われていたため、事業の実施には少なからず影響が出たが、近隣公民館の協力なども得ながら、事業としては当初計画した事業をほぼ実施することができ、来館者の期待に応えることができた。

平成 30 年 5 月からは、1 階に完成した新しい公民館が本格的に稼働することで、新たな来館者の増加も見込まれる。これまで以上に公民館との連携を強化し、地域のニーズに合ったイベント、企画展を行うとともに、広報活動を強化し、来館者を増やす努力を行っていききたい。

2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施事業の 日時・場 所、 従事者の人 数	樹液対象 者の範囲 及び、員 数、評価	事業費の金 額 (単位：千 円)
故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営	1. 中村元博士蔵書整理事業	別紙参照		14,969
東洋思想・文化に係る研究、講座、イベントなどの実施	1. 東方学院松江校の運営 2. 研究員による研究活動 3. 中村元記念館公開講座の開催 4. 企画展 5. 中村元東洋思想文化賞 6. 大学連携事業			別紙参照
東洋思想・文化の普及、啓発のための出版及び広報事業	1. 記念館通信の発行 2. 博物館/施設との連携 3. メディア対応 4. その他広報活動 5. ミュージアムショップ運営	別紙参照		300
国際文化交流事業	1. アジア文化紹介事業 2. 山陰インド協会との連携	別紙参照		150
地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業	1. 中村元記念館友の会の会員募集・会員特典の提供 2. 地域・行政との交流事業 3. 子ども教育事業 4. 旧八束教員住宅(通称)「はじめハウス」の利活用	別紙参照		100

【別紙】

平成 29 年度事業報告書



平成 30 年 6 月

特定非営利活動法人 中村元記念館東洋思想文化研究所

I 全体報告

(1) 入館者数

平成 24 年 10 月 10 日の開館以降、平成 30 年 3 月 31 日時点で延べ 48,560 名が訪れている。前年度と比較すると、特に 8 月、9 月の入館者数が増加しているが、その他の月は、昨年と比較すると減少した。年間を通して来館者数は、前年度の 94%となった。主な理由としては、松江市役所八束支所複合施設改修工事が行われ、例年と異なる運営を余儀なくされたことがあげられる。入口の変更を始めとして、特に東方学院松江校の開講については、騒音のため、八束公民館に教室を変更して行ったことや、工事の粉じんの影響を考慮し、団体客が来館を見合わせたりしたことなどが原因として考えられる。

平成 30 年 5 月からは、1 階に完成した新しい公民館が本格的に稼働することで、新たな来館者の増加も見込まれるため、これまで以上に公民館との連携を強化し、地域のニーズに合ったイベント、企画展を行うとともに、広報活動を強化し、来館者を増やす努力を行っていきたい。

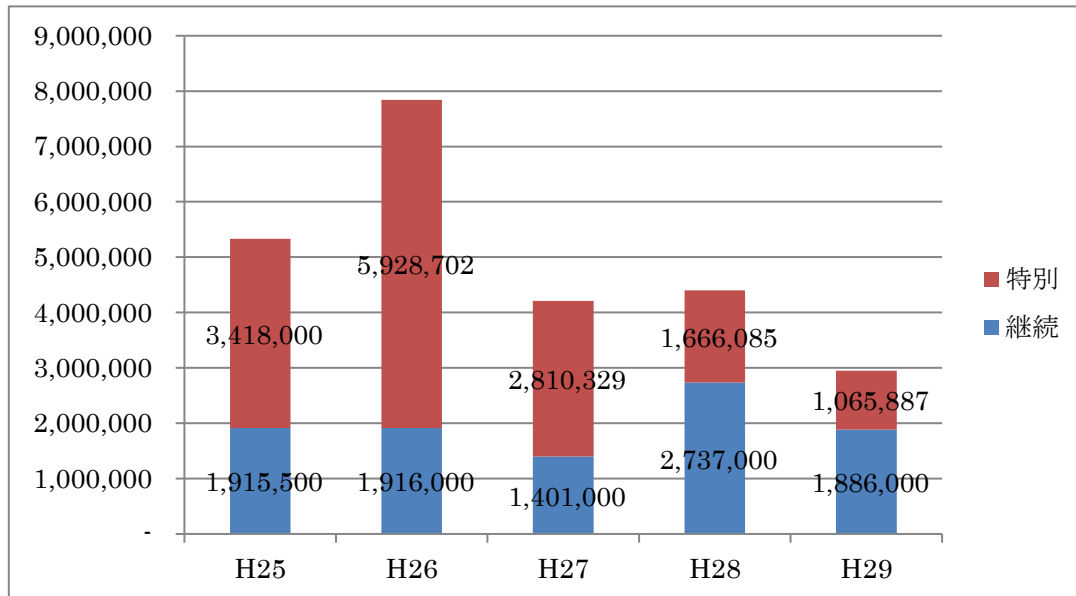
月別入館者数

月	平成 28 年度 入館者数 (人)	平成 29 年度 入館者数 (人)	対前年比 (%)
4 月	1,426	1,384	97
5 月	917	685	75
6 月	560	524	94
7 月	571	384	67
8 月	597	791	132
9 月	595	824	138
10 月	585	733	125
11 月	469	427	91
12 月	369	311	84
1 月	249	137	55
2 月	235	209	89
3 月	587	357	61
合計	7,160	6,766	94
月平均	597	564	94
累計	41,794	48,560	116

(2) 寄付の状況

当館は篤志の皆様のご寄付で運営している施設である。一般的な寄付である特別寄付、複数年度に渡る寄付である継続支援寄付の募財状況について報告する。

寄付金額の推移



上記グラフの通り、平成 29 年度の寄付金額は 2,951,887 円で、前年度に比較して 1,451,198 円減少し、前年の約 67%となった。

中村元記念館の運営、活動、その存在意義をこれまで以上に多くの方に周知し、ご理解、ご賛同をいただけるよう、さらなる努力を重ねていく必要がある。

平成 25 年度より活用できるようになった「しまね社会貢献基金」への寄付金についても、当館の社会貢献事業をさらに推進することで、中村元記念館を支援することが企業の社会的責任を果たすことにもつながることを認識していただけるよう、事業を推進することはもちろん、「しまね社会貢献基金」の制度についてもご理解を求めていくよう努める。

II 個別事業報告

(1) 故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営

1. 中村元博士蔵書整理事業(松江市より受託)

事業の目的	松江市から委託された中村元博士の蔵書を整理・公開することで、松江市の歴史的財産として保存するとともに、研究者の利用のみならず、一般の来館者の皆様にも広く観覧していただく。
実施期間	通年
事業内容	<p>■ 蔵書整理・登録</p> <p>平成 26 年度に導入した図書管理ソフト GANGA と NACSIS 接続ソフト MILAGRO により、国立情報学研究所が運営する総合目録データベース (NACSIS-CAT) を利用し、自館と NACSIS-CAT への登録を実施。</p> <p>平成 29 年度は 2854 点の資料を登録した。(通算登録冊数:9,920 冊)</p> <p>■ 蔵書の公開</p> <ul style="list-style-type: none">・記念館の OPAC(オンライン蔵書検索システム)登録による公開と、企画展等で順次公開した。・松江歴史館 企画展への協力 <p>■ 資料保全作業</p> <ul style="list-style-type: none">・中村博士の蔵書・原稿は、記念館スタッフの他、外部ボランティアの協力なども得ながら、1 冊ずつ手作業で丁寧にクリーニング作業を行い、中でも劣化(破損・カビ・虫食い)が激しいものに関しては、古代出雲歴史博物館などの協力を仰ぎながら、適宜対策を行った。 <p>(平成 29 年度は、約 170 冊の燻蒸をお願いした。)</p> <p>また、温湿度管理を意識し、よりよい環境での保存を目指している。</p> <p>■ 図書室ニュースの発信</p> <p>中村元博士蔵書に関するトピックスや図書室の情報を、フェイスブック、ブログなどで発信。今年度は 3 回発信した。</p>

(2) 東洋思想・文化に関わる研究、講座、イベント等の実施

1. 東方学院松江校の運営

事業の目的	東方学院は、中村博士によって真理追求を目的とする学問本来の姿に立ち返り、「人間の回復」を目指して設立された。東方学院松江校はこの理念を継承すべく、学問のセクショナリズムにとらわれない講座を開講し、多くの人々が「如何に生きるべきか」を考える場を提供することを目的とする。
実施期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
事業内容	<p>「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を贈られた中村元の私塾「東方学院」の理念を継承した「東方学院松江校」において、東洋思想分野に関連する講座を開講した。</p> <p>通年の定期講義では、仏教学分野の他、文学や宗教学、歴史学に関する分野について11の講義を開講した。</p> <p>外部から講師を招聘する集中講義では、現職の大学教員を中心に、中村博士の専門であったインド哲学をはじめ、ジャイナ教、イスラーム教、アメリカ仏教に関連した14 講座を開講した。</p> <p>・講座数:25 講座 受講申込者数:208 名</p>

2. 研究員による研究活動

事業の目的	中村元記念館東洋思想文化研究所研究員:8 名。 故中村元博士が開拓された学問の道を探求し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的として、研究活動を行っている
実施期間	通年
事業内容	<p>研究活動報告の場として、所属研究員による「中村元思想文化カフェ」を実施した。</p> <p>平成 29 年度は 4 回開催し、研究員の関心や企画展の内容に沿った講演など、毎回異なるテーマを設定した。毎回茶菓を用意し、和やかな雰囲気で開催者たちからの活発な発言があり、リピーターも多く、研究員の励みにもなっている。実施内容については、以下の通り。</p> <p>◆第 10 回スペシャル 平成 29 年 9 月 16 日(土)</p>

	<p>笠原 愛古 中村元博士と近代ネパール王室 岡崎 秀紀 ネパールを訪問した最初の日本人、仏教者・河口慧海 日本・ネパール交流史 ☆ネパール展・スペシャルランチ (赤木 香さん:フードコーディネーター)</p> <p>◆第11回 平成29年11月26日(日) 島田 隆輔 仏伝「四門出遊」と宮沢賢治〔雨ニモマケズ〕と</p> <p>◆第12回 平成29年12月24日(日) 岡 宏 21世紀において医療と仏教の協働は可能か ☆クリスマスお楽しみ企画・展示</p> <p>◆第13回 平成30年2月3日(土) 岡 宏 21世紀において医療と仏教の協働は可能か(その2) 島田 隆輔 「宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の信仰について」</p>
--	---

3. 中村元記念館公開講座の開催

事業の目的	「中村元記念館友の会」会員の親睦を目的として、【友の会限定交流会】を実施
実施期間	平成29年5月28日(日)10時～12時
事業内容	<p>プログラム</p> <p>第一部(10時00分～11時30分) 招待講演 出口顕先生(島根大学) 「北欧の国際養子縁組」</p> <p>第二部(11時30分～12時00分) 大学連携事業の一環という面も含め、島根大学法文学部の出口顕教授・副学長をお招きし、「北欧の国際養子縁組と越境する家族形成」と題して、ご講演いただいた。</p> <p>参加された会員は、休憩時間や第二部に予定されていた交歓会の時間のほとんどを使って活発な議論を行い、交流会終了後も会員同士が意見を交換する場面が見られ、良い交流会の場になった。</p>

4. 企画展

事業の目的	中村博士の研究や人物、また東洋思想などについて、博士の蔵書、収蔵品などを体系的に展示し、企画展を開催した。
実施期間	下記のとおり
事業内容	<p>①「中村元記念館クローズアップ展—中村元博士とネパール王室」 期間：平成 29 年 7 月 1 日～10 月 31 日 ネパールが民主化の波にのまれる直前にあったネパールの王室と中村博士との交流に焦点をあて、これまでの中村元博士の年表では、わずか 1 行でしか語られてこなかった中村博士の歴史の 1 ページを博士の日記、書簡、原稿、映像などを使い体系的に展示した。 また、この展示の関連企画として、第 10 回中村元思想文化カフェを開催し好評を博した。</p> <p>②「能海寛生誕 150 年 中村元記念館特別展 チベット仏教求法僧・能海寛と中村元博士」 期間：平成 30 年 2 月 3 日～ 能海寛生誕 150 年特別展として、中村元博士が顧問を務められた能海寛研究会の岡崎秀紀会長のご協力のもと、能海にまつわる貴重な史料をお借りし、企画展を実現。中村博士が＜最初のチベット探検家＞と位置付け、世界の仏教統一を目指した、知られざる求法僧、能海寛の生涯と思想を再現した。</p> <p>③図書室ミニ展示～「中村元 東洋学の開拓～雑誌『東方』の軌跡」 雑誌『東方』を展示。 期間：平成 29 年 6 月 1 日～7 月 31 日</p>

5. 中村元東洋思想文化賞

事業の目的	連携大学を含む、全国の国公立大学及び私立大学100校を対象に、大学生・大学院生のすぐれた論文を広く顕彰し、今後の研究を奨励することを目的とする。
実施期間	授賞式 平成 29 年 10 月 21 日
事業内容	<p>「中村元東洋思想文化賞」を設立し、東洋思想を学ぶ学生による学士論文、修士論文を表彰した。授賞式は松江市能海副市長、ご臨席の元、優秀賞、松江市長賞、奨励賞を授与し、賞状と盾、学術奨励金の他に記念品が贈られた。</p> <p>授賞式では、優秀賞を受賞された筑波大学大学院 横山啓人氏による、「原子論をめぐる仏教徒とバラモン教徒の論争」の受賞記念特別講演が行</p>

	われた。
--	------

6. 大学連携事業

事業の目的	インド哲学や仏教学を学べる大学や、近隣の大学、大学院と連携することで、高等教育の場で、記念館の活用をしていただくことを目的とする
実施期間	下記の通り
事業内容	<p>①島根県立大学短期大学部 工藤ゼミ研修 日程:平成 29 年 11 月 7 日 中村元記念館での学芸員による解説での見学後、溶岩洞の見学を行った。 ゼミ学生 9 名参加</p> <p>②留学生就職促進プログラム 日程:平成 30 年 2 月 15 日 東洋大学 国際部国際課より、島根大学を通じ、留学生の就職促進プログラムとして、インターンシップ受け入れの要請があった。中国からの留学生 1 名を受け入れ、博士の蔵書の内、中国語で書かれた書籍の登録作業を行っていただいた。</p> <p>③連携大学紹介コーナーにおいて、学校案内パンフレットなどを設置し、紹介を行った。</p>
連携先	・大正大学、立正大学、佛教大学、島根大学、島根県立大学、東京大学(インド哲学仏教学研究室)、東洋大学、武蔵野大学、龍谷大学、大谷大学、

(3) 東洋思想・文化の普及、啓発のための出版及び広報事業

1. 記念館通信の発行

事業の目的	中村博士の業績や、中村元記念館の活動を記念館関係者の方々、また広く一般の方々にお知らせすることを目的とする。
実施期間	平成 29 年 10 月発行
事業内容	第 11 号 6000部発行 内容:松江校ガイダンス他活動報告、企画展案内、研究員コーナー、学芸員だよりなど

2. 博物館/施設との連携

事業の目的	広く全国の方へ東洋思想・哲学を普及するため、哲学者を顕彰する全国の施設と連携し普及活動を推進。
実施期間	通年
事業内容	・連携協定を結んでいる「史跡足利学校」ほか、石川県金沢市「鈴木大拙館」、石川県かほく市「石川県西田幾多郎哲学館」をはじめ、近隣の博物館や美術館などとはパンフレット・ポスターの掲示など広報についての連携を継続中。

3. メディア対応

事業の目的	中村元博士、記念館の紹介、博士の業績の顕彰などのため、各種媒体、メディアへの取材対応、記事掲載を積極的に行った。
実施期間	通年
事業内容	①新聞記事掲載 ・山陰中央新報『第 1 面 「慈しみの心」毎日掲載 ・山陰中央新報 文化欄 東方学院松江校 講座案内 随時掲載 ・りびえーる（山陰中央新報）企画展情報掲載 ・文化時報 記事掲載 ・中外日報 記事掲載 ・山陰中央新報 1 月 1 日特集号 「中村元 思想を比較 平和追い求め」 ②雑誌掲載

	<ul style="list-style-type: none"> ・『湖都松江』Vol.35 平成 30 年 3 月発行 「特集 出雲の国 松江の心 自分の考え方にどう向き合うか 「中村元記念館」東方学院松江校 」 ・『図書館雑誌』vol.111 平成 29 年 12 月 20 日発行 「小規模図書館奮戦記—中村元記念館図書室」 <p>③テレビ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平田ケーブルテレビ番組取材対応平成 30 年 2 月 7 日取材 ・論文賞、ヨガデーなどのイベント取材
--	--

4. その他広報活動

事業の目的	中村元記念館及び東洋思想に興味を持っていただくため、チラシやパンフレットだけでなく、ホームページやブログ、フェイスブックなど様々な媒体を通じて情報発信を行った。
実施期間	通年
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの配布(約 1300 部) ・ホームページの運営(講座・イベント情報等適宜発信中) ・メールマガジンの発行 No34～No53 ・フェイスブックの運営(50 回更新) ・ブログの運営(32 回更新) ・中海テレビ放送 みんなの伝言板 3 回配信

5. ミュージアムショップ運営

事業の目的	一般書店では手に入りにくい中村元博士の著作、東洋思想、仏教関連書籍など、専門書籍を幅広く取りそろえ、来館者の知へのニーズを満たす。 記念館オリジナルのお土産品の提供による、来館者満足度の向上。
実施期間	通年
販売グッズ	<p>哲学、東洋思想などの専門書籍を充実させた。出版社の協力もあり、現在、CD や DVD など映像資料なども併せると約 200 種を超える品ぞろえとなっている。</p> <p>また、来館者のお土産として中村元記念館のオリジナルグッズ、クリアフォルダ、オリジナルノート、慈しみのコーヒー詰め合わせ、地元産の紅茶や煎茶などを販売した。</p>

(4) 国際文化交流事業

1. アジア文化紹介事業

事業の目的	中村元記念館の認知度向上や、新規来館者の獲得を目的とし、広く一般の方を対象に中村元博士が研究されたアジア地域について紹介し、文化的な交流を促進する。
実施期間	通年
事業内容	<p>(1) ぼたん祭ステージイベント 平成 29 年 4 月 29 日：昨年に引き続きぼたん祭へ参加した。 ステージイベントとして、大根島在住のプロ音楽家 Keiju 氏にご協力をいただき、音楽コンサートを行った。</p> <p>(2) 図書閲覧室での文化紹介本の設置 アジア各国の文化紹介本等を公共図書館から借り受け、気軽に読書することができる環境を提供。</p> <p>(3) 中村元思想文化カフェでのネパール料理・韓国料理など提供</p> <p>(4) 国際ヨーガの日 平成 29 年 6 月 18 日 (記念館・はじめハウス) 国連が定めた「国際ヨーガの日」(6月21日)にちなみ、初心者でもできるヨーガの体験講座を行った。第 2 部では、インド出身のマドゥリ講師による本場のチャイの作り方講習と、チャイを楽しみながらインド文化についてのお話を聞いた。 「中村元記念館 ヨーガとチャイを楽しむ午後」 第 1 部：ヨーガ 講師 山本紀子先生 (ヨガ講師) 第 2 部：チャイ 講師 マドゥリ・カシバートラさん</p>

2. 山陰インド協会との連携

事業の目的	「日印の絆の要」として記念館があり続けるために、山陰インド協会と連携し、インド等諸外国の要人を招き中村元博士と記念館を知っていただく。
実施期間	通年
事業内容	平成30年3月14日 元駐ドイツ・エチオピア・インドネシア大使、Gurjit Singh (グルジット・シン) 氏来館。インド工科大学インドール校講師が来館され、今後インドの大学との連携を進めていきたいとのこと。

(5) 地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業

1. 中村元記念館友の会の会員募集・会員特典の提供

事業の目的	記念館の理念に共感される方々に「中村元記念館友の会」に加入していただき、運営をご支援いただくとともに、中村元博士の業績、東洋思想及び当館の活動に対する理解を一層深めていただく。
実施期間	通年
事業内容	中村元博士の蔵書整理・公開、東方学院松江校の運営など、当館の活動に対して共感・協力していただける方を対象に、「中村元記念館友の会」に加入していただく。 ・会費 2,000 円/年 ・会員特典 会員証の発行、活動報告の発送、館内での書籍・グッズ購入時の割引、提携施設(由志園等)の入場料割引、会員同士の親睦会の案内 ・平成 29 年度会員 98 名

2. 地域・行政との交流事業

事業の目的	行政、民間、地元八束町の要望に沿った交流事業を実施し、中村元と記念館を知っていただく契機とする。
事業内容	・平成 29 年 4 月 29 日～5 月 5 日:ぼたん祭への参加・運営協力。 ・八束公民館図書室の運営協力 八束複合施設における図書室の設計や選書方針など、地域の各図書館とともに協力を行った。 ・平成 29 年 10 月 18 日:第 4 回中村元記念杯八束町、世代間交流 GG 大会の開催協力 八束町グラウンド・ゴルフ協会主催 ・ボランティアサポーター制度を継続して実施し、約 30 名の方に登録していただき、イベント・図書整理等で支援していただいた。
連携先	八束公民館、松江北商工会、八束町内の自治会・松江観光協会、島根県総務部人事課等

3. 子ども教育事業

事業の目的	記念館で簡単な作業を体験し、中村博士の「慈しみ」の心にふれてもらうことで、小中学生の情操教育に役立てる。また、高校生・大学生にも自習室を解放し、利用してもらう。
実施期間	通年
事業内容	<p>①中学生職場体験 平成 29 年 6 月 20 日～22 日 八束学園 9 年生(中学 3 年生)1 名 職場体験受け入れ。図書整理、事務作業、企画展準備、移動図書館でのブックハンティング(記念館に配架する児童図書の選書作業)などの作業を体験していただいた。</p> <p>②夏休み子供ボランティア 平成 29 年 7 月 25 日 八束学園と連携し、小中学生の夏休みボランティア体験を当館で受け入れ、図書整理などの作業を手伝っていただいた。 参加人数:5 年生 1 名参加</p> <p>③特別支援学級生徒 職場体験 平成 29 年 11 月 7 日～9 日 八塚学園特別支援学級 8 年生の生徒 1 名職場体験受け入れ、事務作業、図書整理作業等に携わっていただいた。</p> <p>④児童図書コーナー(さるすべりコーナー)に、毎月、公共図書館から相互貸借資料を配架し、広い読書年齢に対応した環境を提供</p> <p>⑤自習室の開放 記念館の静かな環境で、勉強や読書を行ってもらえるよう、小・中・高・大学生に自習室を解放した。</p> <p>⑥高校生グループ(出雲農林高校)見学の受入</p>

4. 旧八束教員住宅(通称「はじめハウス」)の利活用

事業の目的	中村元記念館および利用者の行う会議、研究、宿泊、イベントなどの用途に対して、旧八束教員住宅を提供し、活用することです。周辺地域の活性化を促進する。
実施期間	通年
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・東方学院松江校講師の宿泊・東方学院松江校 課外授業開催 民族音楽実践教室の開催(6 回)・各種イベント開催(中村元思想文化カフェ・ヨガデーイベントなど)・その他研修